

建築士事務所 渋谷報 2015 8月号

編集発行 一般社団法人東京都建築士事務所協会渋谷支部



オスカー・ニーマイヤー展 世界遺産をつくった男

平成27年8月11日(火)一般社団法人東京都建築士事務所協会渋谷支部は、有志によるオスカー・ニーマイヤー展の見学会を実施した。

日本とブラジルは1895年に「日伯修好通商航海条約」調印により外交関係を樹立して今年で120周年を迎える。本年は両国の相互理解を一層深める年として、政治、経済、文化、芸術などの分野で交流事業が実施されている。

このたび東京都現代美術館では、その一環として、ブラジルを代表する建築家の巨匠、オスカー・ニーマイヤー(1907-2012)の日本における初の大回顧展を開催する運びとなった。ニーマイヤーは、ブラジルモダン建築の父とも呼ばれ、プリツカー賞、高松宮殿下記念世界文化賞、アメリカ建築家協会ゴールドメダルなど数々の建築賞を受賞し、2012年に104歳で亡くなるまで精力的に仕事を続けた。

リオデジャネイロに生まれたニーマイヤーは、リオデジャネイロ国立芸術大学建築学科で学び、師ルシオ・コスタとともに建築事務所を立ちあげる。その後、巨匠ル・コルビュジエと出会い、ともにニューヨーク国連本部ビルを設計した。1950年代には国家の大プロジェクトである首都ブラジリアの建設設計にたずさわり、その成功は建築という概念を超えた歴史的イベントとして、ブラジルの名を世界に知らしめ、ブラジリアは1987年世界遺産に登録された。

60年代ブラジルの軍事政権下にパリへ移りそこで活動、85年に帰国してからも多くの設計を行い、後進の育成にも努めた。

ニーマイヤーのデザインは女性の身体に例えら

れるように有機的で自由な曲線を特徴とし、ブラジルの自然がもつ生命感とモダニズムの幾何学を見事に融合させている。その未来的な形は日本の建築家にも多くの影響を与えた。

2016年のリオデジャネイロでのオリンピック開催を前に、リオが生んだこの偉大な建築家の展覧会を通して両国がより深い文化的理解を共有できることが望まれている。

●展覧会のみどころ

① オスカー・ニーマイヤーの代表的な建築物を様々なサイズの模型で展示されている。

代表作のひとつである、イピラプエラ公園の30分の1の模型を、約500㎡のアトリウムの大型空間でダイナミックに展開。

② 会場デザインはニーマイヤーに大きく影響され、彼を敬愛してきたSANAA。ブラジルの光をおもわせる白を基調として、ダイナミックでモダン且つ有機的な曲線で会場を構成している。

③ オスカー・ニーマイヤーの日常や創造の秘密をみせる映像資料。

壮絶ともいえる首都ブラジリア建設の詳細なドキュメントも展示されている。

●展覧会情報

・会期

2015年7月18日(土)～10月12日(月・祝)

・会場

東京都現代美術館(企画展示室地下2F)

10:00-18:00(7月～9月の金曜日は21:00まで)